

—収蔵資料紹介—

動物土偶

(資料番号：考古 1347)



この動物土偶は、縄文時代晩期に属する日ノ浜遺跡（函館市恵山地域）から出土し、イノシシの幼獣（ウリボウ）をかたどったものと考えられています。

鼻端部・両前足・左後脚・胴の後上部が欠損していますが、体長が 5.6cm、体高が 4.2cm あります。断面が三角形で太い胴体と極端に短い脚、鼻の横には 1 条の沈線で牙を表現し、胴の両側には 5・6 条の沈線で、ウリボウの特徴である縞模様が表現されています。

この資料のように動物をかたどった土製品は、一般的に動物形土製品と呼ばれています。縄文時代の早期から晩期に至るまで、イノシシ・クマ・サル・トリ・イヌ・シカ・カメ・貝・魚など、様々な動物が形作られています。そのなかでイノシシ形の土製品は、縄文時代の中期後半から晩期にかけて、北海道から西日本に至るまで、ほぼ日本全土で出土し、その割合は同時期の動物形土製品の半数以上を占め、それ以降はみられなくなるという特徴を示しています。縄文時代は、陸での狩りや海での漁撈、植物などの採集によって糧を得ていた狩猟採集社会ですが、遺跡から出土する動物の骨などの分析・研究の結果、シカとイノシシが縄文時代を代表する狩猟の対象であったことがわかっています。

しかし、動物形土製品において、シカとイノシシでは極端に異なる様相を呈しています。先に示したように、イノシシ形の土製品が多数出土しているのに対して、シカをかたどった土製品は数例しか確認されていません。このような出土状態の特徴から、縄文時代の人々はイノシシに特別な思いを持っていたと推察されています。本州では、関東以北の縄文時代の遺跡から、火を受けたイノシシやシカの骨片が多く見られ、火を介する狩猟儀礼が広く行われていたと推測され、イノシシ形土製品も狩猟儀礼や祭祀と関連づけて考えられています。また、イノシシ形土製品には、幼獣（ウリボウ）をかたどった物や、乳房を表現して母イノシシをかたどった物もあることから、イノシシが多産な動物であることに着目して、豊猟や狩猟の無事を祈るなど、イノシシ形土製品自体が狩猟儀礼に伴うものとする研究者も少なくありません。

北海道には野生のイノシシは分布していなかったとされていますが、北海道の縄文時代の遺跡からもイノシシの骨や、骨や牙を用いた加工品が出土していることから、イノシシが何らかの形で北海道に持ち込まれていたと推測されます。イノシシが多産であることを幼獣の姿で表現し、豊猟を祈る狩猟儀礼との関連が考えられる一方で、航海の危険を避けるため幼獣を北海道に運んだことを表現したとも指摘され、当時の交易や精神文化を考えるうえで貴重な資料です。

(小林 貢)

— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※平成 25 年 3 月 31 日現在

分類	件数	点数
博物館史	300 件	1,500 点
地質鉱物	20 件	2,000 点
植物	10,100 件	10,300 点
動物	7,800 件	21,300 点
考古	2,700 件	571,100 点
歴史	4,400 件	18,900 点
民俗	6,500 件	32,800 点
民族	6,600 件	8,200 点
美術工芸	2,900 件	3,900 点
合計	41,320 件	670,000 点

※一括は1件1点と計算しています。

※100 以上は2桁の端数を切り下げ表示し、100 未満は1桁の端数を切り下げ表示しているため、実際の数値より少なく表示しています。

平成 25 年 新収蔵資料

※平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日登録分

- 寄贈 262 件 876 点
 (「函館開港百年祭記念式典案内状」他)
- 移管 4 件 4 点
 (佐野忠吉「日輪」他)

資料燻蒸

平成 25 年 11 月 9 日 (土) ～11 日 (月)
 (博物館史・自然・歴史・民俗・美術資料)
 平成 25 年 11 月 8 日 (金) ～10 日 (日)
 (民族資料)

博物館実習生受入

平成 25 年 8 月 30 日 (金) ～9 月 21 日 (土)
 北海道教育大学函館校 7 名
 札幌学院大学 1 名
 酪農学園大学 1 名
 聖徳大学 1 名



紙芝居「貝の火」(昭和 20 年 7 月発行)

— 普及 (展覧会) —

平成 25 年度展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日	4/1 ～7	4/9 ～21	4/23～ 5/31	6/1～ 6/13	6/14～ 9/1	9/3～ 9/20	9/21～ 11/3	11/5～ 11/17		11/19～ 3/31		
ロビー	前年度ロビー展	函館博物館史コーナー 担当:佐藤・保科		函館博物館史コーナー 担当:佐藤・保科	函館博物館史コーナー 担当:佐藤・保科			函館博物館史コーナー 担当:佐藤・保科				
		北海道博物館情報コーナー 担当:野村・大矢		北海道博物館情報コーナー 担当:野村・大矢	北海道博物館情報コーナー 担当:野村・大矢			北海道博物館情報コーナー 担当:野村・大矢				
第1展示室		常設展 「はこだての歴史 一大昔から現代まで」 担当:小林・保科		常設展 「はこだての歴史 一大昔から現代まで」 担当:小林・保科	常設展 「はこだての歴史 一大昔から現代まで」 担当:小林・保科			常設展 「はこだての歴史 一大昔から現代まで」 担当:小林・保科				
第2展示室	前年度常設展	常設展 「はこはくコレクション — 美術と自然の世界 —」 担当:佐藤・野村		常設展 「はこはくコレクション— 美術と自然の世界 —」 担当:佐藤・野村	常設展 「はこはくコレクション— 美術と自然の世界 —」 担当:佐藤・野村	展示替え 博物館実習燻蒸	企画展 「新収蔵資料展」 担当:佐藤・大矢	展示替え	常設展 「博物館のお宝コレクション」 担当:保科・大矢			
		企画展 「函館商人の人生模様」 担当:保科		企画展 「新島襄と幕末の箱館」 担当:野村	企画展 「新島襄と幕末の箱館」 担当:野村		常設展 「はこはくコレクション — 自然の世界 —」 担当:佐藤		常設展 「はこはくコレクション— 自然の世界 —」 担当:佐藤			
第3展示室		常設展 「戊辰戦争最後の戦い 箱館戦争」 担当:保科		常設展 「戊辰戦争最後の戦い 箱館戦争」 担当:保科	常設展 「戊辰戦争最後の戦い 箱館戦争」 担当:保科				常設展 「江戸から明治へ」 担当:保科			

出前講座等

※平成25年1月1日～12月31日開催

- 自然分野（はこだて国際科学祭） 1件
- 歴史分野（五稜郭などに関するもの） 4件
- 民族分野（アイヌ民族などに関するもの） 3件
- 美術分野（梁川剛一に関するもの） 1件

協力機関等

函館市中央図書館、公立はこだて未来大学、同志社大学、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、JR北海道函館運輸所、富士シリシア化学株式会社、今金町教育委員会、独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター（順不同・敬称略）

— 調査・研究 —

調査事業

- アイヌ民族資料調査研究（大矢）
- 梁川剛一資料整備（野村）
- 次年度展覧会調査（野村・保科）
- 総合博物館調査（佐藤・小林）

研究論文・一般著述等

※平成25年1月1日～12月31日掲載分

- 大矢京右ほか2013「市立函館博物館所蔵 Three Hole Baidarka の製作技術に関する一考察」『市立函館博物館研究紀要』23 pp. 9-16 市立函館博物館；函館市
- 大矢京右ほか2013「市立函館博物館所蔵「椎久コレクション」—八雲アイヌの民族資料とアイヌ語音声—」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』19 pp. 33-73 北海道立アイヌ民族文化研究センター；札幌市
- 保科智治2013「企画展 函館商人の人生模様」2013年3月31日付北海道新聞（朝刊）
- 保科智治2013「資料紹介「企画展 函館商人の人生模様」」①～⑧ 2013年5月1～12日付函館新聞
- 大矢京右2013「小島倉太郎の遺品にみるその足跡—クリルアイヌの強制移住と北海道物産共進会—」『函館日口交流史研究会会報』35 pp. 25-34 函館日口交流史研究会；函館市

研究発表等

※平成25年1月1日～12月31日発表分

- 大矢京右2013「市立函館博物館所蔵16mmフィルム「樺太原住民の生活」」サハリン・樺太史研究会第26回例会；札幌市
- 大矢京右2013「函館観光とアイヌ文化」函館アイヌ

文化研究会シンポジウム「北海道南部のアイヌ文化を探る」；函館市

資料調査・取材対応

※平成25年1月1日～12月31日対応分

- 博物館史資料（「展示ケース」） 1件
- 自然資料（「シモフリスズメ」等） 5件
- 考古資料（「日ノ浜遺跡出土土器」等） 7件
- 歴史資料（「旧イギリス領事館関係資料」等） 4件
- 民俗資料（「氷切道具一式」等） 1件
- 民族資料（「馬場コレクション」等） 6件
- 美術資料（「アイヌ風俗絵馬」等） 3件
- その他（展示室風景等） 2件

印刷物発行

※平成25年1月1日～12月31日発行分

- 市立函館博物館2013『市立函館博物館研究紀要』23
※平成25年3月31日発行 40頁

平成 25 年度職員構成等

館長

阿部司 ————— 博物館協議会
| (委員 11名)

管理担当

学芸担当

金木照之(主査)

佐藤理夫(主査、自然・博物館史)

輪島佳代子

野村祐一(主査、美術・歴史)

余川智子

小林 貢(考古)

三浦真人

保科智治(歴史・民俗)

木村 凜(臨時)

大矢京右(民族・民俗)

山本泰子(嘱託)

SARANIP—サラニップ—No. 53

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP(サラニップ)—
アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。